

医師と医師会を結ぶ情報紙

令和5年4月15日／毎月1回15日発行

Vol. 686

都医NEWS

発行所 ■公益社団法人 東京都医師会 〒101-8328 千代田区神田駿河台2-5 TEL.03-3294-8821(代) 定価 ■1部77円

東京都医師会 第299回(臨時)代議員会 01

底流／令和4年度 東京都多職種連携連絡会シンポジウム ほか 02

地区医師会長連絡協議会報告 ほか 03

令和4年度 湾岸四都市医師会懇談会 ほか 04

第34回 医療とICTシンポジウム ほか 05

みどりの広場 ほか 06

ふれあいポスト 07

都医からのお知らせ ほか 09

地区医師会長からの一言 10



立川国営昭和記念公園 ネモフィラ

撮影：大畑隆郎(板橋区医師会)

三 東京都医師会 第299回(臨時)代議員会 三



窪田議長

窪田議長は、冒頭、3月1日(水)にご逝去された鈴木聰男元東京都医師会会長に、出席者全員が黙祷を捧げた。

挨拶のなかで尾崎治夫会長は「WBC(ワールド・ベ이스ボール・クラシック)で日本が優勝したことで日本中が歓喜の渦に包まれ、選手同士の素晴らしい連携が見られた。連携の重要性は、スポーツ界だけでなく医療界でもいえることである。喫緊の課題は、団塊の世代が後期高齢者になり少子超高齢社会に突入する2025年問題であり、本会のTMA近未来医療会議でも検討を重ねているが、今後の課題に取り組むうえで必要になるのがこの『連携』である。地域包括ケアも多職種との連携であり、かかりつけ

日医代議員(補欠) (定数2名)
弘瀬 知江子
土谷 明男

日医予備代議員(補欠) (定数3名)
高橋 一司
安藤 高夫
武井 正美

スタッフを4、5名派遣してもらい、日頃から感染症に対する訓練をしておくことで、パндеミックが発生した時に即時に対応できるようにしておく。これは感染症だけでなく災害医療にも活用できる

角田徹副会長より「令和5年度東京都医師会事業計画」の報告があり、TMA近未来医療会議に関する事項の中に「地区医師会に医療政策を検討する委員会の設置を要請する」が盛り込まれた。救急医療に関

るには医療DX、すなわち情報の共有が重要である。東京都では東京総合医療ネットワークが構築されており、ベランダ間の壁をなくして情報の共有を図っているのので、ぜひ多くの医療機関にネットワークに参加していただき、将来の連携につなげていきたい。また、新型コロナウイルス感染症の流行時のように、患者数が急増した際に対応できる臨時医療施設の必要性も感じている。都内の病院から

第1号議案「令和4年度東京都医師会会費減免申請に関する件」は大坪理事より説明があり、決議された。

第2号議案「東京都医師会定款等改正検討特別委員会の設置に関する件」は角田副会長より説明があり、決議された。

第3号議案「日本医師会代議員(補欠)及び同予備代議員(補欠)の選出に関する件」は連沼理事より説明があり、木村暢孝選挙管理委員会委員長並びに萩原昭久副委員長が登壇し、選挙が行われた。両選挙ともに候補者が定数と同数であったため、無投票での選出が決議された。

東京都医師会第299回(臨時)代議員会が、3月23日(木)に東京都医師会館で開催された。進行は窪田美幸代議員会議長、指田純代議員会副議長が務めた。3月13日(月)から厚生労働省がマスクの着用は個人の主体的な判断を基本としたが、出席者のほぼ全員がマスクを着用していた。

医機能を発揮するためにも医師間の連携が必要だ。東京都には、さまざまな専門性のある医師が集まっており、各科の専門性を生かして互いに連携することで、地域の人々の健康を支えることができるのではないか。このような連携の仕組みにより、かかりつけ医機能を持つ医師は在宅医や病院勤務医と連携することができ



会場の様子

する事項では、救急患者の早期地域移行の支援を東京都と協力して行うことが示された。また、在宅療養に関する事項では、在宅医療委員会を設置するとともに新たに小児在宅医療部会を設置することが述べられた。

総務担当の連沼剛理事より「東京都医師会会費減免期間延長(医学部卒後5年間)について」の報告があった。続いて、経理担当の大坪由里子理事より「令和5年度東京都医師会収支予算」の報告があり、了承された。

底流

もう一つのパンデミック
「心不全・パンデミック」に備える

新型コロナウイルスのパンデミックはとりえず収束しつつあるが、高齢化による心不全患者の増加がもう一つのパンデミックを起こしつつある。

「パンデミック」は本来感染症の世界的な流行により、医療や社会生活に大きな影響を及ぼす状態を称する。心不全は世界的に患者数が増加しており、一説によると6000万人以上にのぼるといわれている。日本でも2030年には130万人を超えると推定されており、その要因は主に高齢化にある。死亡率は女性の乳がんや男性の前立腺が

不全症状を来たすステージC、そして治療抵抗性の末期心不全であるステージDとなる。心不全に対する予防ワクチンはないが、ステージAにおける高血圧や糖尿病などのリスク因子の管理は、COVID-19に対するワクチンと同等の意義を持つと考えられる。ステージBでは、器質的心疾患の進展予防によって心不全症状の発現を予防することが治療の主眼となる。

心不全症状を発症したステージCでは、基本薬と呼ばれるACE阻害薬/ARB、β遮断薬、ミネラルコルチコイド受容体拮抗薬にさまざまな併用薬を組み合わせてステージDへの進展を抑える。ステージCでは、心臓リハビリテーションも重要なツールとなる。

急性増悪時には入院治療が必要となり、退院後は再入院の予防、あるいは再入院までの期間をできるだけ延ばすために在宅での管理が重要となっている。ここでは医師だけでなく、看護師、栄養士、理学療法士などの多職種から成るチームによる対応が大切であり、病院スタッフのチームへの参画も望まれる。更に感染症への罹患は大きな入院リスクとなるため、各種のワクチン接種も重要になる。心不全・パンデミックに備えるためには、心不全の発症予防だけでなく、発症後の在宅診療体制の整備が急務と考えられる。

(齊藤寛和)

令和4年度
東京都多職種連携
連絡会シンポジウム

2月18日(土)、令和4年度東京都多職種連携連絡会シンポジウムが開催された。今回は、これからの社会を担う若者たちに向けて、医療・介護に関わるさまざまな職種の魅力をアピールし、進路の参考にしてもらうことを目的として企画された。参加対象は中学生や高校生、医療・介護の専門学校などの学生を中心とし、広く周知を図り参加を募った。最終的に115名の参加申し込みがあり、当日の参加者は72名であった。今回も、昨年度同様に完全オンラインでの開催と

冒頭に、平川博之副会長と小竹桃子氏(東京都福祉保健局医療改革推進担当部長)から開会の挨拶があった。第一部の基調講演では、「介護の未来の可能性」と題して、秋本可愛氏(株式会社Blanket代表取締役)が自身の経験を交えて介護職の魅力について語り、第二部「介護を支える専門職の役割について」では、各職種を代表して相田里香氏(東京都介護支援専門員研究協議会副理事長)、小幡真也氏(東京都介護福祉士会副会長)、田中恭子氏(東京都訪問看護ステーション協合理事)、嶋田浩平氏(東京都リハビリテーション病院理学療法士)、三沢幸史氏(東京都作業療法士会副会長)、大橋三広氏(東京都言語聴覚士会理事)、餌取恵美氏(三ノ輪口腔ケアセンター歯科衛生士)、矢治早加氏(医療法人社団明正会管理栄養士)が、それぞれの現場での活動の紹介を通じて、その必要性ややり甲斐についてわかりやすく説明した。

その後、事前に聴講者から提出された質問事項への回答を交えながら、パネルディスカッションが行われた。各演者がキャリアパスのなかで現職に辿りついた経緯、なぜ本職を選んだのか等について興味深く紹介され、各職種の魅力を更に深掘りした話が語られた。結びに、西田伸一氏より若者たちに向けて「エールが送られ、閉会した。本シンポジウムが、次回是对面で行われるようになることを期待したい。」

次いで、慶事委員会のお祝い、永年役員・看護高等専修学校永年講師・永年勤続職員に対する記念品の授与が行われ、それぞれ代表者より謝辞が述べられた。

来賓祝辞では、まず尾崎治夫東京都医師会会長が登壇し「地区医師会と東京都医師会、行政がタッグを組んで、市民・都民のための医療提供体制を構築していただきたい」と述べた。続いて、角田徹日本医師会副会長、服部征夫台東区長、堀浩一明浅草医師会会長、



田村下谷医師会長

下谷医師会創立70周年
下谷医師会立看護高等専修学校
創立55周年 記念式典・祝賀会

2月25日(土)、都内のホテルにおいて下谷医師会創立70周年並びに下谷医師会立看護高等専修学校創立55周年記念式典・祝賀会が開催された。城所功文下谷医師会副会長より開式の辞が述べられ、式典が始まった。田村順二下谷医師会会長は式辞のなかで、下谷医師会の歴史を紹介し、「台東区の下谷・浅草の両医師会をはじめとした医療・介護の団体および行政と協力し、台東区の医療のために邁進してきたい」と述べた。

続けて、下谷医師会立看護高等専修学校の吉田雄一郎学長より式辞があり、「本校はこれまで2359名の卒業生を送り出してきており、これからも継続していきたい」と語った。

会場を移して行われた祝賀会では、柴原副会長の開会の辞に続き、田村会長より挨拶があり、「この3年間、新型コロナウイルス感染症のためにできなかったが、親しい方々と近い距離で会うことは人間にとって本当に大事であり、心が豊かになる。これからこうした機会が増えてくることを期待したい」と語った。続けて、安

都医ニュース表紙の
写真を募集

本ニュースは毎月、季節に合った東京の写真を表紙に掲載しております。その表紙写真に、先生が撮影した写真を応募してみませんか？ 都内の写真で、季節感のあるものをお願いします。本会広報委員会で掲載を決定いたします。なお、掲載された写真は、本会のホームページにも掲載させていただきます。

応募規定
デジタルカメラやスマートフォンで撮影した600万画素以上(横3000×縦2000ピクセル以上)のデジタルデータ
プリントサイズは、横235mm×縦137.5mm以上

応募・問い合わせ先

〒101-8328 東京都千代田区神田駿河台 2-5
東京都医師会 広報学術課 ☎ 03-3294-8821 (代)
kouhou@tokyo.med.or.jp



基調講演の秋本氏

秋本可愛氏は72名であった。今回も、昨年度同様に完全オンラインでの開催と

都医ニュース2号(昭和36年2月発行)をお持ちの方はご一報ください
東京都医師会 広報学術課 ☎ 03-3294-8821



功労賞表彰式に出席した受賞者と尾崎会長

功労賞表彰式に出席した受賞者と尾崎会長

また、本会議の提言を広く周知するため、単行本の出版を予定している。出版記念報告会を5月19日（金）午後4時から東京都医師会館において開催するので、地区医師会長および担当役員にも参加いただきたい。詳細は決まり次第、改めてご案内する。

（2）新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけの変更に伴う医療提供体制の構築について

5月8日（月）から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが2類相当から5類感染症に変更されることに伴い、厚生労働省から今後の医療提供体制や診療報酬・病床確保料・公費支援の見直し等、新たな方針が示されたので概要を説明した。

（3）「第31回日本医学会総会2023（東京）」の参加登録等について

地区医師会長 連絡協議会報告

令和5年3月17日（金）

冒頭において、東京都医師会功労賞の表彰式が行われた。令和4年度は49名が受賞し、当日は15名が出席した。受賞者には尾崎治夫会長から表彰状と記念品が授与され、代表して弦間昭彦氏（日本医科大学医師会）が謝辞を述べた。

開催について

標記会議では4つの論点に分けて議論を重ね、第4クールのテーマ「国民皆保険制度・医療保険制度の未来像」について提言を取りまとめた。このたび、公開シンポジウムを4月6日（木）午後4時から東京都医師会館においてハイブリッド形式で開催する。地区医師会の役員をはじめ、多くの会員に参加いただきたい。

4月21日（金）から開催される「第31回日本医学会総会2023（東京）」について、国土・食料・環境・保健委員会（国立国際医療研究センター理事長）が出席し、挨拶および参加登録の進捗状況等を報告した。

（4）在宅医療推進強化事業について

東京都では、在宅医療の更なる推進を図ることを目的として、令和5年度より地区医師会を補助対象とした新規事業「東京都在宅医療推進強化事業」を開始する。事業説明として、地区医師会担当理事連絡会を3月30日（木）午後7時からオンライン形式で開催するので、出席をお願いしたい。

（5）新型コロナウイルス感染症について

今後のワクチン接種について

（1）第153回日本医師会臨時代議員会における代表質問について

（2）城東ブロック

（3）城西ブロック

（4）城南ブロック

（5）城北ブロック

（6）多摩ブロック

（7）大学ブロック

（8）出席者による意見交換

（9）その他

（10）第153回日本医師会臨時代議員会における代表質問について

FM93.1 AM1242 月曜から金曜

ニッポン放送

あさ6時15分頃から

『モーニングライフアップ』

今日の早起きドクター

放送中!

ニッポン放送（AM1242kHz／FM93.0MHz）朝の番組「飯田浩司のOK! Cozy up!」内で6時15分頃から5分程度、東京都医師会の役員・委員会委員等が出演して生活に役立つ健康情報をお届けしています。

過去の放送はすべて番組ホームページまたはポッドキャストから聴くことができます。

■番組ホームページ
<http://www.1242.com/cozy/>

■ポッドキャスト
<https://omny.fm/shows/cozy-up/playlists/doctor>

飯田浩司の

OK! Cozy up!

令和4年度 東京都医師会功労賞受賞者

（敬称略）

■東京都医師会代議員（10年在任） 藤田耕一郎（港区医師会） 渡邊英章（目黒区医師会） 渡邊 仁（中野区医師会） 渡邊伸介（豊島区医師会） 弓倉 整（板橋区医師会） 指田 純（西東京市医師会） 弦間昭彦（日本医科大学医師会） 長岡 功（順天堂大学医師会） 佐藤裕之（順天堂大学医師会） 磯沼 弘（順天堂大学医師会） 山路 健（順天堂大学医師会）	○学術委員会 金子英司（東京医科歯科大学医師会） ○労災・自賠責委員会 石垣 徹（東久留米市医師会） ○精神保健医療福祉委員会 土屋 譲（荒川区医師会） 西村由紀（メンタルケア協議会） ○地域包括ケア委員会 椎名美恵子（東京都訪問看護ステーション協会） 鈴木博之（東京都高齢者福祉施設協議会） ○東京都医師会介護老人保健施設連絡協議会 山本 亘（足立区医師会） ○東京都医師会在宅医療協議会 太田雅也（世田谷区医師会） 迫村泰成（新宿区医師会） ○医事紛争処理委員会 浅田真弓（丸ビルあおい法律事務所） 川崎志保理（順天堂大学医師会）	河原秀明（板橋区医師会） ○精度管理委員会 井手徳彦（府中市医師会） 内藤俊夫（順天堂大学医師会） ○産業保健委員会 須賀元彦（北区医師会） 多比良 清（板橋区医師会） 中川陽之（江戸川区医師会） 正林浩高（大森医師会） ○学校保健学校医委員会 森山正敏（田園調布医師会） ○学校精神保健検討委員会 田中 哲（世田谷区医師会） ○都立学校心臓検診判定委員会 中西敏雄（女子医大医師会） ○タバコ対策委員会 荒井 敏（調布市医師会） 野村英樹（金沢大学） ○公衆衛生委員会 永田靖彦（西東京市医師会）	○感染症・予防接種委員会 多屋馨子（神奈川県衛生研究所） ○地域医療推進委員会 石塚太一（八王子市医師会） ○病院委員会 高野研一郎（蒲田医師会） ○救急委員会 中島 康（都立病院医師会） 矢野正雄（町田市医師会） 山田雄飛（西東京市医師会） ○救急委員会救急相談センター運用部会 櫻井 淳（日本大学医師会） 庄古知久（東京女子医科大学附属足立医療センター） ○救急委員会災害医療研修部会 武田宗和（女子医大医師会） ○救急委員会区市町村災害医療コーディネート研修部会 布施 明（日本医科大学医師会）
--	---	---	---

令和4年度

東京都医師会「医学研究賞・グループ医学賞」
「医学生懸賞論文 Student Doctor プラタナス大賞」
・・・ 表彰式 ・・・

3月7日（火）、東京都医師会館において、令和4年度東京都医師会「医学研究賞・グループ医学賞」および「医学生懸賞論文 Student Doctor プラタナス大賞」の表彰式が行われた。本年度は医学研究賞1名、奨励賞9名、グループ医学賞1団体、およびプラタナス大賞は大賞1名、優秀賞3名が受賞した。

表彰式の前は、当日出席した5名の受賞者と論文の選考に携わった尾崎治夫会長、落合和彦理事、目々澤肇理事、市川菊乃理事との懇談会が開催され、各論文に関する講評や意見交換が行われた。

表彰式では同会の落合理事より両賞の目的と選考経過についての説明があり、その後、尾崎会長より表彰状が授与され、各受賞者からは謝辞と論文執筆の経緯や思いが語られた。

※受賞論文の全文は、東京都医師会雑誌に掲載されます（「医学生懸賞論文 Student Doctor プラタナス大賞」は3月号、「医学研究賞・グループ医学賞」は7月号に掲載）



（後列）市川理事、石橋さん、石山さん、目々澤理事
（前列）落合理事、竹下先生、高尾先生、森下先生、尾崎会長

令和4年度 東京都医師会
医学研究賞・グループ医学賞

【医学研究賞（1名）】

○森下英晃（順天堂大学医師会）
順天堂大学医学部生理学第二講座 准教授
「新規細胞内分解システムの同定とその破綻による病態の解明」

【医学研究賞奨励賞（9名）】

- 高山賢一（東京大学医師会）
東京都健康長寿医療センター
老化機構研究 専門副部長
「治療抵抗性前立腺がん悪性化を促進する転写因子複合体形成における相分離機構の解明ならびに治療への応用」
- 長谷川 頌（東京大学医師会）
東京大学大学院 医学系研究科
慢性腎臓病病態生理学講座 特任助教
「交感神経－免疫関連による急性腎障害の病態制御メカニズム解明」
- 藤井陽一（東京大学医師会）
東京大学医学部附属病院 泌尿器科・男性科 助教
「上部尿路上皮癌の分子病型類と分子診断」

○河合桃太郎（慶應医師会）
慶應義塾大学医学部 整形外科 助教
「脊髄損傷に対するヒトiPS細胞由来神経幹細胞移植における、移植細胞の選択的な長期刺激による運動機能の改善」

○吉野美保子（慶應医師会）
慶應義塾大学 慶應グローバルリサーチインスティテュート 特任教授
「糖尿病予備軍女性におけるNicotinamide mononucleotide (NMN) の骨格筋インスリン感受性に与える効果の検討」

○森 雄太郎（東京医科歯科大学医師会）
東京医科歯科大学大学院 歯学総合研究科
歯学専攻器官システム制御学講座
腎臓内科学分野・テニュアトラック助教
「KIM-1 mediates fatty acid uptake by renal tubular cells to promote progressive diabetic kidney disease」

○永石宇司（東京医科歯科大学医師会）
東京医科歯科大学大学院 歯学総合研究科
消化管先端治療学講座 准教授
「Immunoglobulin A-specific deficiency induces spontaneous inflammation specifically in the ileum」

○猪俣武範（順天堂大学医師会）
順天堂大学医学部眼科学講座 准教授
「スマートフォンアプリケーションを用いたドライアイのデジタルフェノタイプングによるP4 Medicineの実現：クラウド型横断観察研究」

○福田直到（順天堂大学医師会）
順天堂大学医学部熱帯医学・寄生虫病学講座 助教
「アフリカにおけるアルテミシニン耐性マラリアの証明」



挨拶する尾崎会長

2月25日（土）、都内のホテルにおいて令和4年度湾岸四都市医師会懇談会が開催された。湾岸四都市とは東京湾を囲む千葉市・横浜市・川崎市・東京都の四医師会で、今回では東京都医師会が当番で、尾崎治夫会長の開会挨拶に続いて、斎藤博明千葉市医師会長、水野恭一横浜市医師会長、岡野敏明川崎市医師会長から各医師会の近況、話題などがそれぞれ報告された。

続いて、横浜市医師会が提案した「財政制度等

審議会財政制度分科会が示した社会保障における『かかりつけ医制度の法制化』等についてに関する活発な協議・意見交換が行われた。東京都医師会からは土谷明男理事が『かかりつけ医』の問題は資格要件や制度だけでなく、患者・医師の関係性の問題でもある。文書の取り交わしは形式に過ぎず、相互の信頼関係の構築に努め続ける必要がある」と述べた。

その後、角田徹副会長より追加発言があり、日本医師会の『かかりつけ医』に対する今後の方針に関する説明がなされた。

なお、本懇談会の出席者は東京都医師会から尾崎会長以下、猪口・角田・平川各副会長、蓮沼・西田・土谷・水野各理事の役員8名、千葉市医師会7名、横浜市医師会4名、川崎市医師会4名であった。



左から、斎藤千葉市医師会会長、水野横浜市医師会会長、尾崎会長、岡野川崎市医師会会長

【グループ医学賞（1団体）】

○医療デジタルトランスフォーメーション（DX）
高尾洋之 他6名（慈恵医師会）
「医療DXを推進する遠隔医療・パーソナルヘルスレコード（PHR）アプリとその新型コロナ対策への展開」

令和4年度 東京都医師会
医学生懸賞論文 Student Doctor
プラタナス大賞

【大賞（1名）】

○伴野未沙さん（東京慈恵会医科大学）
「ウクライナ避難民支援を通して学んだ日本・および医学生に求められる役割」

【優秀賞（3名）】

- 石橋拓真さん（東京大学）
「火星に医師は何人必要か？」
- 中西一貴さん（東京大学）
「新時代の医療へ」
- 石山裕也さん（日本医科大学）
「現存する救急搬送システムの問題点と新体系の構想」

第34回 医療とICTシンポジウム

—東京都民のための医療連携について討論—



目々澤理事

3月4日（土）、第34回医療とICTシンポジウムがオンライン形式で開催された。松本吉郎日本医師会長のビデオメッセージによる来賓挨拶があり、はじめに目々澤肇理事からオンライン資格確認・電子処方箋と医療情報ネットワークについての現状報告が行われた。続いて、特別講演として厚生労働省医政局医療機能情報分析専門官の高田大輔氏から、これまであまり詳細が明らかにされていなかった厚生労働省の医療D

カルテ・医療改訂DX)についての実務的な解説があった。ここでは、来たるべきシステムについてはデジタル庁と緊密な連携を取りながら開発が進められていることが明らかにされた。

その後、東京都医師会医療情報検討委員会の土屋淳郎委員長を座長に、本シンポジウムのテーマ「東京都民のための医療連携とは」EMR・EHR・PHRのあり方」について講演が行われた。藤田卓仙委員より「PHRの推進を前提とした個人情報保護・セキュリティ」、加藤浩晃委員より「オンライン診療と医療AI」、齊藤光江委員より「患者目線の次世代診療」の演題発表が行われ、講演の後には田澤雄基委員と目々澤理事を加えてパネルディスカッションが行われた。国が将来的なビッグデータ収集を目的とした医療情報共有を行うおとししているが、その実現の前にまず患者のリテラシー育成を行わなければならないこと、そして医療機関が過度

パネルディスカッションの様子

東京都医師会
定例記者会見



尾崎会長

東京都医師会は3月14日「じた対応が必要になる」と述

(火)に定例記者会見を開催した。

し、今後の新型コロナウイルス感染対策とポストコロナの医療体制について見解を示した。

平川博之副会長は「これまでのクラスターの多くは高齢者施設で発生しており、いったん施設内にウイルスが侵入

等の攻めの感染防御策も導入すべきだ。また、どの類型の施設においても同等の医療提供体制になるように整備する必要がある」と訴えた。

院職員を訓練
するためのシ
ミュレーション
ントレーニン
グセンターと
して活用し、
1000床規
して活用でき
新型コロナが
今だからこそ
えてこのよう

有事の際には模範の専門病院と連携するようにする。また、次の有事に備えるスペースを確保

東京都医
 市川理事
 では多言語に対応した医療情
 報サービスを提供しており、
 国内でもトップクラスの医療
 提供体制が整備されている。
 また、医療現場では、普段話
 している日本語を簡単な言葉

市川理事

5類への移行にあたり

尾崎治夫会長は「新型コロナウイルスが5月から5類へ移行するが、今後は重症化しやすい高齢者の見極めとその対策が重要」とし、加えて抗体検査の活用

尾崎会長は「人口減なく高齢化が進む東京都では、新たな災害や感染症が発生した場合、医療・介護が壊滅的な状況になる可能性がある。平時から大災害・パンデミックを想定した臨時医療施設の設置に向けて、引き続き働きかけていきたい」と述べた。

訴えた。

外国人に対し
市川菊乃理
ンドが増加す

する医療体制

『語』を広める動きもある。外国人だけでなく、高齢者や高次脳機能障害者、子ども等とのコミュニケーションにも有用であり、都民の方々もぜひ活用してほしい」と紹介した。



猪口副会長



平川副会長

なネットワーク恐怖を持たないようにして、新たな方向を
目指さねばならないことなど
が討論された。

結びに、尾崎治夫会長より

「今の医療ICTはかえって面倒さを増すだけでしかない。本来であればICTは医療の効率を上げるためのものでなければならず、本会から国に対してもっと強く要望を上げていきたい」とコメントがあり、閉会となった。なお、今回の参加者数は88名であった。

日本医師会
医師年金
加入資格は

アニメ

シミュレーション
一括申し込み

お問い合わせ先
日医年金

日本医師会
医師年金

スマホ・パソコンで簡単手続き

加入資格は日本医師会会員で64歳6カ月未満の方です
(申込みは、満64歳3カ月までをお願いします)

醫師年金 檢 索

アニメーションで仕組みを確認



シミュレーションで保険料を試算



一括払専用加入申込書プリントアウトで
申込み（保険料のお支払いは後日ご案内します）

※重要事項説明書をよくお読み下さい(申込書の3、4ページに記載)

お問い合わせ先

日医 年金・税制課 ☎ 03-3942-6487(直) (平日 9 時半～17 時)

181
みどりの
広場

独法と墨東

地方独立行政法人東京都立病院機構
東京都立墨東病院 院長 足立健介



新型コロナウイルス感染症
対応を始めてから4度目の春
を迎えました。激務の先生方
のご自愛を衷心よりお祈り申
し上げます。当院ではコロナ
専用病床を最大140床設
け、そのうち人工呼吸器、E
CMOに対応可能な重症者用
病床を14床としてきました。
新型コロナウイルスをはじめと
した通常診療の両立は決して
「地方独立行政法人東京都立

りません。今まで以上に病院
機能を強化し、組織改革に取
り組んでまいります。
独法化に伴う当院の組織力
強化は以下の5点に要約され
ます。①手術部創設による外
科系診療科の充実…ロボット
支援(ダビンチ)手術は導入
後わずか1年で、泌尿器科、
外科(上部および下部消化管
外科、肝胆脾外科、呼吸器外
科)、婦人科まで拡大し、安
全に毎日実施されています。
現在では、1日2件実施する
日もあります。②遺伝子診療
科の新設…がんゲノム医療だ
けではなく、NIPITの基幹
施設認定も取得し周産期医療
にも対応を広げています。
③システム管理室の創設…シ
ステム・セキュリティ強化
とDXを用いた働き方改革を
推進しています。④人財育成
センターの設立…人は財な
りのコンセプトのもと、東
京情報大学との共同研究を開
始したほか、明治薬科大学と
の包括連携協定を締結しまし
た。また、特定行為認定看護
師養成に向けて、都立病院初
の指定研修機関の指定を2月
に受けました。⑤患者・地域
支援センター(PRセンター)
の更なる強化…昨年末には入
院サポートセンターの改修工
事を済ませ、地元3医師会墨
田区、江東区、江戸川区)の
方々との医療連携の推進を
図ってまいります。
院長就任後の2年間、当院
のブランド力強化を進め、コ
ロナ禍にあっても「時代に選
ばれる」病院、独法化ととも
にステップアップした「期待
を超える」病院を目指してま
いりました。この確固たる実
現に向け、全職員のレジリエ
ンス(しなやかな回復力)に
も大いに期待をしています。
この「みどりの広場」には
当院をトップバッターに、当
機構15施設のご紹介をリレー
掲載させていただく予定です。
どうぞよろしくお願いいたし
ます。

JR日野駅を出て狭い道
を東に向くと、徒歩3分ほ
どで大きなお寺に辿り着
く。「大昌寺」である。慶
長7(1602)年創建、
新選組最大の支援者であ
り、明治11(1878)年
に初代南多摩郡長になった
佐藤彦五郎と妻ノブ(土方
歳三の実姉)の墓所がある。
新選組は、ちよくちよく皆

となり、京都市中見廻りと
して誕生した。日野市で発
生した剣術「天然理心流」
は受け継がれ、特に狭い室
内での戦いが得意であった
という。
大昌寺前の道を東へ進
み、大通りを左折し、甲州
街道へ。更に左折すると左
手に「日野宿本陣」がある。
都内で唯一残る、江戸時代
に建てられた本陣建物であ
る。新選組は、ここにあっ
た道場で剣術に励んだ。こ
こではボランティアの方々
に、日野と新選組の歴史
を解説していただける。
甲州街道を日野駅に戻る
途中、左側に大きな神社が
ある。日野八坂神社である。
寛政12(1800)年に建
造されたもので、精巧な彫
刻が組み込まれた神社建築
として、日野市指定重要文
化財に指定されている。安
政5(1858)年に奉獻
された剣術上達を祈願する
額には、日野宿の剣士達23
人と近藤勇、沖田総司の名
が連なっている。
日野駅周辺の散歩でも、
新選組の歴史の一部が見え
てくると思う。新選組ファ
ン、どうぞいこへ。
(日野市医師会・塩谷武洋)



大昌寺

JR日野駅周辺
新選組のふるさと

趣味の散歩

医師国保からのお知らせ

令和5年4月からの保険料について
～今年度、保険料の改定はありません～

	医療保険料(月額)		介護納付金 保険料 (月額)	後期高齢者組合員 保険料 (月額)
	医療給付費 保険料	後期高齢者支援金等 保険料		
第1種	27,500円	5,000円	5,500円	—
第2種	13,500円	5,000円	5,500円	—
家族	7,500円	5,000円	5,500円	—
第3種	—	—	—	1,000円
第4種	—	—	—	1,000円

※介護保険料は、40歳以上65歳未満の方が該当します。※後期高齢者組合員保険料は、第3種・第4種組合員(75歳以上)の方が該当します。

ぜひ、ご家族や常勤の従業員の方と一緒に、医師国保組合に加入してください。
www.tokyo-ishikokuho.or.jp

東京都医師国民健康保険組合 ☎ 03-3270-6433 (業務課)

知っていますか?

TIR (Time in Range)

持続血糖モニター(CGM)等の機器の普及により算出できるようになった新たな血糖管理の指標で、1日のうち目標範囲内(70~180mg/dl)の血糖値で過ごす時間のこと。従来の指標であるHbA1cでは正確に把握することができない高血糖や低血糖の状態、すなわち血糖変動の状態を評価することができる。TIRは1日の70%以上であることが目標とされている。

掲示板

上機嫌の習慣
小林弘幸 著



筆者は自律神経の専門家である。自律神経は、交感神経と迷走神経の綱引きでバランスをとっている。このバランスが崩れると心身に影響し、日常生活がうまくいかなくなる。
本書は、72の小話で日常生活において注意すべき事柄を面白くかつ医学的に説明している。この小話の半分は、多くの人がすでに行っていることであり、読者の自信につながる。一方、残りの半分は、明日から実行したいと思うことである。
「おわりに」の章では、「朝一杯の水を飲む」「机の引き出しを片づける」「階段を使う」「1駅歩く」「いつもより遠いほうのコンビニに行く」というような、小さなことから始めて、少しずつ自分の機嫌やコンディションを上げていきましょう、と読者にアドバイスしている。肩に入った力が抜け、実行したくなる内容である。
発行▼主婦の友社 価格▼1430円(税込)

練馬区医師会

和田圭一郎

長谷川町子記念館を訪れて

休日に世田谷区桜新町にある長谷川町子美術館を訪れました。長谷川町子さんは言わずとしれた『サザエさん』の作者で、長谷川姉妹が収集した美術品を一般の方にも楽しんでもらいたいと美術館を1985年に開館。町子生誕100周年を記念して、キャラクターや原画、長谷川姉妹の生い立ちなどを展示する記念館が2020年に作られました。子どもの頃に通っていた散髪屋や診療所には、『サザエさん』や『いじわるばあさん』の漫画がいっぱい置いてあり、待ち時間に笑いをこらえながら読んだ記憶があります。

記念館では、さまざまな漫画や解説を読むことができます。私の一押しは『いじわるばあさん』です。1966年から雑誌に連載された4コマ漫画で、テレビドラマにもなりました。『サザエさん』のようなアットホーム路線とは一線を画した毒のある作品です。記念館の解説を参考にとすると、主人公の伊知割 石（イシ）は、数々の意地悪やいたずらで人々を困らせるのが生きがいという困った老人です。意地悪の対象は家族や知人だけでなく、通行人や海外旅行で出会った人々など見境がないため、家族や町の人から疎まれていきます。長男家族と同居していますが、いつも石の意地悪に悩まされ、次男や三男の家にたらい回しになったり老人ホームにも預けられますが、そこでも職員へ意地悪をして追い返されてしまいます。亡くなったご主人も石には泣かされ続け、お盆になっても“あの世から婆さんのところへ戻らないのはお前だけだ”と言われます。石は夫の命日には海苔巻きやショートケーキなどの夫の大嫌いだったものをわざと仏壇にお供えする意地悪ぶりです。私も妻とはよく喧嘩するので、あの世に行ってもお盆の時期に帰ることができないかもしれません。

漫画家としての長谷川町子さんは、シャイで人前に出たがらないことで有名でした。しかし子どもの頃は悪ガキで、物差しを持って歩き、気に入らない男の子の頭を片っぱしから叩いてまわり、納屋へ男の子を閉じ込めて外から鍵をかけて出られなくしてしまったそうです。20年間『サザエさん』で家族愛を描き続けた後に、ブラックユーモアに満ちた『いじわるばあさん』で、彼女自身の地を描くことができたのかもしれない。この他にも、『いじわる看護婦』や『いじわる家政婦』という姉妹編もあるそうで中身が気になります。

漫画が描かれた1966年当時、日本人の平均寿命は男性で68歳、女性で73歳でした。現代では男女ともに15歳近く延びて、

未曾有の超高齢社会です。石さんのように見境なく意地悪するのは困りものですが、生き甲斐である意地悪が決まった時はとてもいい笑顔になります。一方で自分が人から疎まれているこ

とや孤独であることを気にする場面もあり、高齢者の切実な気持ちが垣間見えます。脳神経内科の当院に来院される患者さんやご家族からも、いろいろな問題行動や家族間のトラブルを相談されます。丁寧にお話を伺ったり家族指導を行って、できるだけ多くの方が素敵な表情で生活できるようにしていきたいと思います。桜新町の長谷川町子美術館と記念館にご興味のある方は、ぜひ一度足を運ばれることをお勧めします。

（練馬区医師会だより 令和4年8月 第653号より抜粋）



売店で購入した、『いじわるばあさん』の小皿



記念館前にて



立川市医師会

平野静香

バナナ

バナナが好きです。一気に熟して柔らかくなりますし(固いのが好き)、冷凍しても、結局あるもの全部食べてしまいカロリー過多になってしまうので、“大好き”からは減点です(でも、吉本ばななさんの本は大好きです)。ふと、バナナについて実はあまり知らないな、と思い、ネットで調べてみました。

■「バナナの歴史」：人類は紀元前一万年頃から栽培しているようです。この時期は氷河期が終わった頃。どのような味だったのか、考えるとわくわくします。ちなみに日本に入ってきたのは明治時代で、それを売り切るために大正の頃から「たたき売った」ようです。

■「バナナの栽培」：好きなら作ろう！との主旨で検索しましたが、果実をとるには水がたっぷりと必要そうですし、ズボラな私と寒い立川ですと難しそうなので断念。ただ、木そのものは0℃にも耐えられる、というのは新たな発見でした。

■「バナナの皮の剥き方」：私が思っていたのと逆側から(へたから)剥くのがよいとのこと。今度試してみたいと思います。サルやチンパンジーはちゃんとへたから剥くようです。

■「高級バナナ」：国産の高級バナナ、皮まで食べられるとあります。ごみが減るので、はやりのSDGsにも配慮されていますね。そして、落とされた皮で滑って転んで怪我をする、ということがなくなります。まさに(高級)バナナは地球を救います。



春到来

武蔵野市医師会 藤田光裕

■「バナナのうた」：小児科には「うた」が欠かせません。子ども向けでは「とんでったバナナ」「バナナのおやこ」。病棟などで流れていた記憶もあるので、両方とも歌えるような気がします。ちなみに、飛んでったバナナは最後は食べられちゃうんですね。皮ごと。

小児科ではバナナは日常です。子どもの離乳食には初期から使えます。食欲がなくても、バナナは食べるという子どもには親近感があります。

以上になります。12年後、バナナはどのように進化をとげているか、楽しみでなりません。

(立川市医師会ニュース 令和5年1月 第610号
「卯年生まれの子の年男男女女」より抜粋)

無 声 拝 聴

医学部の留年

最近、某大学医学部の留年問題がネットを中心に話題になっている。問題になっている科目は「医の倫理学」および「医系の人間学」という科目である。報道によると、授業後に提出するレポートと、学生によって行われる演劇で点数化され、多くの学生がその科目だけで留年になり、「アカハラ」との声が生徒から上がっているとのこと。その大学は学部こそ違おうが、私の妻の卒業大学で、彼女はそのような留年は聞いたことがないと話している。

かく言う私も大学時代、選択科目のドイツ語のみで留年するという煮え湯を飲まされている。その後、幸運にもドイツでの生活を経験し、今ではドイツ語はかなり自分を表現できる言語になったため、結果的には良かったと言えるが、今の私がタイムマシンに乗って、その頃の私に「この苦労が報われるから」と言っても、聞く耳を持たないに違いない。

さて、某大学の留年問題についての意見はここでは差し控えるが、最近ではインターネットによって、昔なら拡散されないようなことでも炎上騒ぎになったり、週刊誌ネタになってしまったりする時代になった。つまりは、医師であろうが教育者であろうが、自分の判断の説明責任を負わされていることは疑いの余地がない。50年前の『白い巨塔』の世界のように、自分の肩書だけで世間を黙らせることができないということ、肝に銘じておくべきであらう。（山本純）

「虫酸が走る」寄生虫

「虫酸が走る」という表現があるが、実際に寄生「虫」が皮下を這いずり回ることがある。現在、青森での集団発生が話題になっている顎口虫は皮膚爬行症を起こす代表的な寄生虫である。記録によると秋風が立つ頃から患者が出現しはじめ、令和4年11月下旬にピークとなり、令和5年2月10日時点での累計患者数は291名に達している。顎口虫はイタチやイノシシなどの寄生虫だが、幼虫は淡水魚に寄生しており、これを生で食べることによってヒトに感染する。しかし、顎口虫にとってヒトは本来の宿主でないため、幼虫は皮下組織内を這い回り（幼虫移行症）、その痕跡は爬行疹という特有な線状の発赤や遊走する限局した腫脹となる。稀ではあるが、脳や眼にも侵入するため、危険な寄生虫といえる。

今回はシラウオを加熱せずに食べたことが原因とされている。以前から秋田や青森ではシラウオを生食したのちに幼虫移行症を呈する患者が時折見つかっていた。シラウオが原因となる寄生虫としては横川吸虫の方がよく知られており、都内のある病院では人間ドックの受診者の3~6%が感染していたことが20年ほど前に報告されている。

もともと顎口虫はドジョウやナマズ、ライギョの生食によって感染することが知られていた。美食家やゲテモノ食いを専門とする寄生虫なのだ。しかし、湖水のシラウオや美しい溪流を優雅に泳ぐイワナやヤマメにもそのリスクはある。森林に住む野生動物と、それを下支えする溪流の生物の間で顎口虫の生活環は完成している。私もかつて溪流で毛鉤を振っていたことがあり、そこで釣った魚をいただくのは格別の楽しみであった。しかし、淡水魚の生食にはさまざまな寄生虫の感染リスクがある。それらは実にしぶとく、酢で締めた位では感染性を失わない。安全に淡水魚を食べるには加熱か数日間の冷凍処理が必要である。淡水魚の刺身や踊り食いなどは避けるべきものの典型といえるだろう。

（文責：美田敏宏）

感 染 症 豆 知 識

東京都医師会
感染症予防検討委員会

都医からのお知らせ
INFORMATION

第459回 国際治療談話会 例会「画像診断におけるAI」

問 合 先

（公財）日本国際医学協会 事務局
東京都世田谷区上馬 1-11-9-3F
TEL: 03-5486-0601 FAX: 03-5486-0599
E-mail: imsj@imsj.or.jp URL: <https://www.imsj.or.jp/>

日時 ▶ 5月18日（木）19時～21時

形式 ▶ WEB講演

開会挨拶 ▶ 石橋健一（（公財）日本国際医学協会 理事長）

座長 ▶ 山崎 力（（公財）日本国際医学協会 理事）

【第1部】感想「サウンドスケープと展覧会～その技術と展望」森 洋久（東京大学総合研究博物館 准教授（情報理工学））

【第2部】講演Ⅰ「CT、MRIにおけるAIおよびRadiomicsの活用について」桐生 茂（国際医療福祉大学成田病院 放射線科 放射線主任教授）

講演Ⅱ「核医学診断・治療におけるAIの役割」平田健司（北海道大学大学院医学研究院画像診断学教室 准教授）

取得単位 ▶ 日医生涯教育制度1単位（CC：9、0）

申込方法 ▶ 右記QRコードまたはZoomウェビナーページ
（https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_okbKE0R9RYy1X07--jneSw）より、事前登録をお願いします。

視聴 ▶ 無料



都医 HP・Eメール

■ ホームページアドレス

■ Eメールアドレス

<https://www.tokyo.med.or.jp>
jimu@tokyo.med.or.jp

地区医師会長からの一言 医療連携と予防医療 ～継続は力なり!～

港区医師会長 坪田 淳



港区医師会は、先輩医師たちのご尽力により港区行政との関係がとても良好であり、妊婦・新生児～乳幼児・児童などの健診や予防接種、また成人の健診で尿中微量アルブミンを測定するなど、充実した健診内容になっています。今年から他の自治体に先駆けて実施が決まった帯状疱疹ワクチン接種も、不活化ワクチンのみならず、従来からある生ワクチンに対しても補助が受けられるようになり、行政に感謝しております。

そして、特に紹介させていただきたい事業があります。赤坂区民センター内にある、日本医師会認定健康スポーツ医が運動処方箋を発行する健康増進センター「ヘルシーナ」をご存じでしょうか。ほとんどの先生が、まだご存じないのではと思います。構想は平成2年に遡るようで、当会会員で、当時東京都医師会健康スポーツ医学委員会委員だった高岡邦子先生、「臨床運動療法懇話会」を発足した中村葉二先生が、東京都のみならず全国で啓発活動をされました。そして当会内での組織づくり、行政との折衝などで、臥薪嘗胆は大袈裟でしょうが6年間の熟成期間を経て、日本医師会スポーツ医の認定や初めての更新が追い風となり、近隣のスポーツ施設と競合することなく、疾病を有する方々への運動療法を安全に行うことを主眼として発足されました。

「ヘルシーナ」では、疾病の有無を問わず、運動療法を希望される方に丁寧な問診をし、持参いただいた直近の健康診断の結果を詳細に検討します。その後、日本医師会認定健康スポーツ医の管理下でエルゴメータを用いた運動負荷試験を行い、管理栄養士による栄養指導とともに、個人に合った適切な運動処方箋を作成します。平成8年4月、被験者第1号に当時の菅谷眞一元港区長を迎え、「ヘルシーナ」は船出しました。「継続は力なり」で令和4年6月には利用者総数が10,000名を超え、その間一度も事故は起きていません。

他には類を見ないこの事業に関して、藤田耕一郎前会長が「何らかの形で公表できないだろうか」と模索されていました。そんなと

ころに、厚生労働省・スポーツ庁主催「第11回 健康寿命をのばそう! アワード」を知りました。この賞が企業や市民団体、自治体などが行う健康推進に関する事業や取り組みを広く周知する場であることから、みなと保健所の二宮博文健康推進課長が応募して下さったところ、驚くべきことに、初めての応募で「厚生労働省健康局長優良賞」を受賞することができました。令和4年12月には、武井雅昭港区長にも報告の機会をいただき、今後ますます「ヘルシーナ」のような事業を発展させる必要性や、現在まで安全に実施できていることの重要性について説明させていただき、ご理解を得られたものと思います。多くの健康スポーツ医の先生方の関与・ご尽力があって、今の継続につながっています。感謝を申し上げますとともに、他の地区にも波及することを心より祈っております。



坪田港区医師会長と武井港区長